

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援/放課後等デイサービス Olinaceちはら台		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 5日 2025年 1月 27日	～	2024年 11月 30日 2025年 2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 44名 46名	(回答者数)	36名 24名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 27日	～	2025年 2月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	(回答者数)	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	脳科学理論をもとにした運動療育	<ul style="list-style-type: none"> 「動」と「静」のセットでメリハリを意識 「動」と「静」の組み合わせで脳と体が成長し集中力を身に付けます。脳と体は相互関係にあります。体を動かすと脳(前頭前野)が活性化し、集中するために必要な脳の領域が元気になります。「動」と「静」の活動を交互に繰り返すことにより、興奮を瞬時に抑制する力が高まります。動と静のメリハリで、より強い抑制力を育てるため、結果的に集中する力が身に付きやすくなります。 数分ごとにあそびを変えて脳を刺激する 脳の様々な力を切り替えながら行うことで、楽しく能力を育てることが出来ます。また、子どもも飽きずに続けられるため、集中力も鍛えられます。 ストーリーやイメージと運動がセットになっている ハイハイをするだけでも「犬さんみたいに歩こう」など、イメージさせて体を動かすことで想像力を鍛えます。 	定期的な運動研修の実施やアレンジした運動プログラムの共有
2	個別学習	<ul style="list-style-type: none"> 小学生においては、個別に宿題を行うことで苦手な教科に対して、興味が持てる。 「できた」を育て次へのチャレンジの気持ちを育てている。 	定期的な研修を行い、共有
3	語彙力の向上	<ul style="list-style-type: none"> カードやサインを併用して発語の促しを行っている。 動きの真似をすることが、行動と言葉に連携していることを取り入れている。 	定期的な研修を行い、共有

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会等の活動	保護者同士の交流を希望されている声を伺う為、交流等を行うことができないか検討が必要。	他教室との連携を取りながら行う。
2	地域交流	地域の幼稚園や保育所との交流、又は、地域のイベントへの参加の方法を検討が必要。	イベントの内容によって、保護者と一緒に参加するなどを企画ができないかを考える。
3	保護者参加での研修	空き時間が無い為、保護者を交えての研修を行うことが厳しいのが現状。	他教室と連携をして、空きのある教室において研修を開く事ができないかを検討していく。